

[24_01]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470170>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 24 (1), 1991-01-25. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

編集後記



あけましておめでとうございます。1991年最初の号です。ここで決意も新たに「今年の抱負として、広報にこのように取り組んで・・・」と書きたかったのですが、なにせ我家では年末年始の時間が渦巻のようにめまぐるしく回り、気がつくつと御用始めの朝という状況でしたので、お正月にゆっくりと一年の抱負という心のゆとりが有りませんでした（申しわけありません）。

ところで、この貴重な時間をどのように過ごしたかという事を、反省を込めて振り返ってみますと、まず年末29日、年2回しかしない2階の窓ガラス拭き及び諸々の掃除、30日実家で恒例の餅つき、殆ど1日がかりです（でも、自分達の手でついた餅は格別おいしいです）。31日子供を宥めすかし掃除の手伝いをさせながら、正月料理作り（特別な料理はしないのですが、我家では、雑煮の具を一人一回分づつ串に刺して何十本も用意して置きます。）、やっと終わって夜の11時過ぎから越しそばを食べ、テレビの除夜の鐘の音を後に氏神様へ家族揃ってでかけます。お宮では地区の人々と新年の挨拶を交わし、お世話下さっている役員の方々から御神酒をいただき、今年一年の家族の健康と繁栄を願い新年を迎えます。利用者の皆さんはどのようにして新年を迎えられましたか（ちなみに、我が家は福岡市から車で約45分、一山超えた郡部にあります）。

元日朝10時御屠蘇をタップリ呑んで一年の邪気払いをし、やっと正月を迎えられたかと思っていたのに、親類に不幸があり、1日の夜から2日中忙しい思いをしました。40余年生きてきましたが正月の葬式は始めてでした。人間の生き死に正月も何もないのですね。1月1日の命日、誰も忘れはしません。きっと叔父さんは寂しがりやだったんでしょう。でも、我が寿命がつきる時、正月は避けようと思いました。葬式用の生花は花が揃わなく（競りは28日が最後でした）、なんと松まで入っていました。火葬場ではたった1人の職員の方が、その日11人の仏様を相手に苦戦してありました。精進上げの料理は材料がなく見た目には豪華でも食べる物がありません。後で各家の御節料理を持ってくれば良かったとの意見も出ていました。そちらの方が心のこもった供養になったかもしれないと思いました。とにかく正月から人の一生とはとシンミリ考えさせられました。

このようにして、年末年始の休暇は終わってしまいました。今年もよろしくお願いします。

(H. N)

ボンボコリンが一世を風靡した1990年のクリスマス、初めて海外というものにお目見えしたカッペのM子です。どこを歩いてもクリスマス一色で、街中の人々は皆 So Happy! 日本人が多くてちょっとがっかりですが。。。しかし、ロックフェラーセンターのツリーはほんとにきれいでしたよ。誰かが言いました、「ニューヨークのクリスマスは最高だぜ」と。私は思いました、「彼氏と一緒にならね・・・」と。本年もどうぞよろしく。

(M 子)

